



優 秀 賞



七時雨山のトレイルランニングを通した地域振興と文化的景観の保全

パシフィックコンサルタンツ株式会社

谷彩音・千田 雅明・小野崎研郎・松延穰・千葉清護

私たちは、「七時雨マウンテントレイルフェス」(以下フェス)を通して、七時雨山の魅力を発信し、地域活性化と景観保全につなげる取り組みを行っている。

岩手県八幡平市の北端に位置する七時雨山は、カルデラ地形

をなし、山麓では古くから短角牛の放牧による牧草地景観がみられる。山麓の鹿角街道は、歴史の道百選(文化庁)に指定されるなど、自然・歴史・文化の資源の宝庫であるものの、以前はそれらが十分に活用されていなかった。

そこで、七時雨山と周辺の古道や登山道を組み合わせ、トレイルランニングのフィールドとして活用する取り組みを立ち上げた。今ある資源を活用し、自然環境への負荷を抑えながら、地域の魅力発信につなげられることが大きな利点であり、冬のス

作品概要

作品名—— 七時雨山のトレイルランニングを通した地域活性化と文化的景観の保全
対象地—— 岩手県八幡平市
目的—— 七時雨山の資源を活かした地域の魅力発信と地域活性化、景観の保全
体制—— 実施主体:七時雨マウンテントレイルフェス実行委員会/共催:八幡平市・八幡平市観光協会・八幡平市商工会・田代山共有管理組合・関沢山牧野 農業協同組合・新町牧野農業協同組合・七時雨口マンの会・浅沢地域振興協議会・寺田地域振興協議会・七時雨バグライダーズスクール、クラリー牧場、安比自然学校/目利き:土屋彰氏/全体コーディネート:取り組み支援:パシフィックコンサルタンツ株式会社
発注—— 岩手県八幡平市(平成23~24年度)、国土交通省東北運輸局(平成25~26年度)
期間—— 平成23年10月~平成27年3月

作品評

本作品は、中山間地の地域活性化に4年間に亘って関わり、地域資源の発掘とその活用方を提案し、その後の様々なマネジメントを経て、現在は地域による自律的な取り組みへと移行中である事業のマネジメント成果である。

あくまでも地元を優先した活動主体とし、その活動をうまく支援・誘導している点、地域独自の景観や産業を活かして、ランドスケープという職能の成果と産業育成を融合させている点、などが評価され、地域活性化の方向を示した「地域マネジメント」のモデルとも云える成果である。マネジメントの手法や具体的内容に目新しさは無いものの、一つひとつの取り組みが真摯に行われ、確実な成果を積み上げた点も、現在の結果につながっている。提出された資料も見やすく、活動の目的と内容、その成果と次の展開などが、解り易くまとめられており、優秀賞となった。



①カルデラの景観 ②牧草地の景観 ③鹿角街道を走る選手たち ④トレイルランニングマップ ⑤実行委員会は、丁寧な合意形成を重ねた ⑥総勢100名以上のボランティアがレースを支える ⑦七時雨トレイルランニングクラブの仲間たち ⑧トレイルのメンテナンスには地元ボランティアの力が欠かせない

キー観光に依存してきた八幡平市にとって、夏の新たな需要喚起も期待された。

地元を中心として有志の実行委員会を立ち上げ、平成25年に1回目のフェスを開催した。七時雨山に200名のランナーが集まり、地域住民が主体となって地域活性化に取り組んだ成功事例として、地域内外から注目を集めた。

その後の課題は、一過性のイベントから通年の交流人口の拡大につなげることで、七時雨山ならではの牧草地景観を保全することであった。目利き(アウトドアの専門家)と地域の協働による地域資源の磨き上げを経て、資源の商品化(ツアー化)を図るとともに、マップや動画等のプロモーションツールを作成した。また、牧草地の保全に向けた第一歩として、短角牛の美

味しさを伝える取組や、現状への理解促進のためのパンフレットの作成等の取組を行った。

多様な主体が参画する実行委員会では、価値観や重視する点の違いから、合意形成が難航することもあるが、常に共通の理念を確認しながら、多くの議論と丁寧な意識の共有を重ねてきた。こうしたプロセスを経たことで、地域が主体となって取り組む機運が高まり、地元ボランティア参加型の運営体制も確立された。

一連の取り組みを経て、地域資源をうまく活かすことで地域活性化が図られ、人が訪れることで地域の環境が維持・保全されるという、正のスパイラルが生まれつつある。平成28年には、第4回目のフェスが成功をおさめ、地域内外からますます注目が高まっている。